

第2回 板橋区かわまちづくり協議会 議事録

2022年12月5日（月）10時～11時

出席委員)

危機管理部長 三浦委員、防災危機管理課長 関根委員、地域防災支援課長 柏田委員、コミュニティ防災新河岸地区代表 小原委員、板橋区町会連合会高島平支部支部長 戸田委員、板橋区青少年健全育成高島平地区委員会会長 古谷委員、板橋区町会連合会舟渡地区委員 植草委員、株式会社東京ドームファシリティーズ屋外施設担当 山田委員

1. 開会

2. 板橋区かわまちづくりの取組について（リサイクルプラザ前で説明）

柏田課長)

かわまちづくり協議会第二回を開催します。あいにくの天候ですが、実際に現地を見て説明させて頂きたいと思い、第二回は現場で開催させていただきます。

かわまち協議会は、かわまちづくり計画に基づく事業の実施に関すること、かわまちづくりの計画の変更に関すること、にぎわいの場創出に関すること、かわまちづくりの推進に関することについて協議を行う協議会になっています。

また、かわまちづくり計画についての説明のためにパネルも用意させていただきました。重々ご存じかと思いますが、荒川の河川敷は、荒川破堤時、地域のほぼ全域が5m以上の浸水深になってしまうことや、その浸水継続時間は2週間以上を想定されているというところで水害のリスクが非常に高い地域になっています。一方で、地域資源としてのポテンシャルは非常に高く、例えば花火大会やシティマラソン、親子たこ揚げ大会、生物生態園など、集客のポテンシャルとして高いものを秘めています。

そこで、水害リスクの解消とにぎわいのポテンシャルを更に伸ばしていこうという取組みを一体的に進めていくものが、かわまちづくり支援制度と呼ばれる国土交通省の支援制度となっています。この支援制度に板橋区としても手を上げ、水害に対応するための高台まちづくり等の防災面の強化と、にぎわいづくりのためのスポーツゾーンの利便性向上をかわまちづくり計画に位置付けております。

事業概要について説明します。新河岸陸上競技場と堤防天端はほぼ同じ高さになっていて、お互い浸水しない高さにあります。そこで、ここを連絡通路で結ぶことによって、新河岸陸上競技場に逃げ込んだり、堤防を使って上流か下流かに逃げたりできるような避難経路を整備できればと考えています。

にぎわいづくりとしては、河川敷の整備を行います。お手元の資料は、案の段階ですが、今後、国土交通省荒川下流河川事務所とも調整し検討いたします。既存のスポーツ施設をつなげるようなプロムナードを整備することで、既存の設備の使い勝手を上げていこうと考

えています。もう少し上流には、夏場に水に親しめるような護岸を整備したり、レガッタ、サップなどで遊べるようなリバーステーションを整備したり、そういう物を組み合わせることによって、利用者を増やし、にぎわいをつくることを目指しています。

また、にぎわいづくりに関連し、リバーサイドフェスティバル荒川というイベントを開催します。日時は2023年の3月25日、26日です。戸田橋緑地サッカー場、野球場、生物生態園あたりを会場として考えています。主催は観光協会になっています。内容はピクニックやペット、グルメ、アウトドアをテーマとした催しを考えております。アウトドア広場に設置する防災コンテンツや災害対策支援船を見て頂くことで、防災への関心を深めてもらうことも考えています。こういったソフト的な取組と、これから進める河川敷の改修を合わせて実施することで、にぎわい創出と防災力向上を図りたいと思っているため、我々かわまちづくり協議会としても出来る限り応援、協力できればと考えています。協議会に具体的なご負担はないですが、このフェスティバルを後押ししていきたいと思っていますのでご承認頂ければと思います。

—————（事務局より説明後、議論）—————

植草委員)

水辺のにぎわいイベントが実施される3月25日と26日は舟渡地区で大々的なさくらまつりがあります、役員や大人はみんなその準備を行う必要があると思うので、イベントへの協力は難しいと思います。

柏田課長)

ありがとうございます。具体的な人的な協力だけではなく、色々幅広く協力して頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

3. 新河岸陸上競技場の連絡通路について（新河岸陸上競技場前で説明）

柏田課長)

第二部に入りたいと思います。資料は先ほどの続きです。洪水ハザードマップをご覧くださいければと思います。今度は主に防災面というところでの説明になります。洪水ハザードマップは皆さんご存じかとは思いますが、この地域は特徴としまして、一度荒川が氾濫するとほぼ5m以上沈んでしまう地域です。パネルに記載の通り、一度浸水してしまうと水が引くまでに2週間以上かかってしまう地域になります。

荒川下流河川事務所で作って頂いている3D河川管内図で、実際に荒川が破堤するとどういふ風景になってしまうか確認頂けます。茶色になっているところが濁流となって流れてきて実際こういう風景になってしまうというところなんです。このような状況でも、今いる新河岸陸上競技場と堤防天端は沈まないということになっています。他にもいくつか沈んでいない建物はありますが、先ほど申し上げました通り一度沈んでしまうと2週間孤立してしまう地域になりますので、早い間に遠くに逃げて頂くというのが原則だと思います。こちらが、

新河岸陸上競技場と堤防天端に橋をかけるという取組みの背景になります。

板橋区としての避難のあり方についてですが、荒川の水位が上昇し、かなり大きな被害が予想されるタイミングであれば、できるかぎり南側の台地側に早く逃げて頂きます。大前提で広域避難、縁故避難でこの地域から離れて頂くというのがステップ1の段階です。荒川が決壊し始めている、もう遠くに逃げる時間も手段もないということになったというタイミングになったときには、新河岸陸上競技場に、命を救うための手段として緊急退避をして頂きます。そのため、あまり早いタイミングでここに逃げて頂くとか、いつでもここで受け入れて大丈夫というものではなく、最後の手段として逃げ込んでいただくということをイメージしています。更に、周辺地域が沈んでしまった状態になった時には、新たに整備する連絡通路を使って逃げて頂くというのがレベル5と書かれているイメージです。繰り返しますが、新河岸陸上競技場も堤防も沈みません。現状はこの2点が繋がっていないので、ここに逃げ込んでも孤立してしまいます。そこで、通路を堤防と繋げることで、緊急避難的に最後の手段として、逃げ込んだ後に堤防をつたって避難することができるということを目指して進めています。

具体的な完成イメージも資料に記載しています。今あるスロープと堤防を最短距離で結ぶ通路をこの後整備していこうと考えています。荒川下流河川事務所と相談になりますが、このまわりに堤防側帯を作ることで、非常時に緊急車両が停車できないかと検討している。堤防の上から河川敷までの階段を使うことで、普段河川敷を使っている人が陸上競技場のシャワーやトイレ、休憩室を使えたり、陸上競技場の利用者が河川敷でウォーミングアップをしたりとか、河川敷と陸上競技場の回遊性を持たせるために階段と通路を普段使いできるよう整備することも合わせて検討しています。説明は以上です。

—————（事務局より説明）—————

4. 前回協議会における要望事項への回答

柏田課長)

前回協議会で小原代表から頂いた、質問要望事項について現時点の考えをお答えできる範囲でお答えしたいと思います、資料が付いていないので口頭でのお答えとなります。5点ご要望を頂いていますので、回答します。

要望1：防災倉庫・防災用具の設置・非常食・飲料水・仮設トイレ・タオル・携帯用充電器やパソコン等の用意について

新河岸陸上競技場は、緊急的・一時的に生命を守るための退避場所となるものの、そこからさらに連絡通路を活用し、浸水地域外へ脱出することを想定しているため、競技場に長時間滞在することは想定していません。

また、管理棟には、物資を備蓄するスペースがなく、さらに水再生センター上部の人工地

盤上に整備された新河岸陸上競技場に、新たな構造物を設置するためには、下水道局との調整、人工地盤の耐荷重など、課題も多いため、備蓄倉庫の必要性も含めて、今後検討していきます。

要望 2：台風の大雨大風等から身を守れる屋根・壁の設置について

水再生センター上部の人工地盤上に整備された新河岸陸上競技場に、新たな構造物を設置するためには、下水道局との調整、人工地盤の耐荷重、老朽化など、課題も多いため、現時点において難しいと考えています。

要望 3：新河岸地域は高齢者が非常に多く、要支援者が 100 人いるため水害に強い EV の設置について

新河岸陸上競技場は、水再生センターの上にあるため、新たな施設整備の際には、東京都との協議が必要となります。また、設置にあたり躯体への影響のほか、エレベーターを設置するスペースが限られること、地震や浸水時にはエレベーターは使用不可能となること等の課題もあるため、実現可能性を含め、今後検討します。

要望 4：堤防の天端の拡幅工事を実施と併せた緊急車両用駐車場、ヘリポート場の設置について

堤防の天端における緊急車両の U ターンができるスペースの整備については、設計を発注する荒川下流河川事務所さんと調整を行っていきたいと思っています。どのくらいのスペースが必要なのかという議論もあると思いますが、緊急車両を停めてそこで U ターンするような使い方ができればと考えております

また、水害発生時に、浸水し、孤立した住民を救助する際に、ヘリコプターによる救助は有効であると思いますが、板橋区かわまちづくり計画では、新河岸陸上競技場から連絡通路を経由し、堤防上を避難するため、当該地域においては、孤立することは想定していないところです。さらに、ヘリポートの設置は、堤防への荷重負担や工期への影響などの課題もあるため、荒川下流河川事務所とともに検討します。

要望 5：ペットと 24 時間一緒に暮らせる避難所の設置について

新河岸陸上競技場は、緊急的・一時的に生命を守るための退避場所となるものの、そこからさらに連絡通路を活用し、浸水地域外へ脱出することを想定しているため、競技場に長時間滞在する避難所ではありません。区内すべての指定避難所において、ペットが避難するスペースを指定してありますので、高台の避難所へのペット同行避難をお願いします。どの指定避難所でも、ペットのスペースは指定してございますので、そちらを活用頂ければと思います。

現時点の見解としてはこのような所になっています。こちらの連絡通路についての説明は以上になります。何かご質問、ご要望、ご意見、ございますでしょうか。

小原委員)

完成予定は令和6年でしょうか。

柏田課長)

令和6年です。この後、設計に入りますが、あまり地盤が良くないというところもあるので、工期通りに進むかどうかは、この後詰めていきます。ただ、遅くとも令和7年の出水期前には何とか完成させたいと考えております。

植草委員)

完成後、通路の鍵は閉じられ、人は入れないのでしょうか。

小原委員)

現在、河川敷で野球やサッカーをしている人たちから、河川敷のトイレは使えないと聞いています。トイレのためにコンビニに行っている人たちがここのトイレを使えたらいいと思いました。

柏田課長)

管理人がいる昼間の時間帯は開けておくので、そのスペースは使用できると考えています。なお、夜間は閉じることを想定しているので、緊急時に誰が鍵を開けるかなどの検討は今後行う必要があります。

この後も計画変更等あるかもしれませんが、その都度また皆さんに情報共有させて頂ければと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

5. 通水 100 周年について

————— (荒川下流河川事務所より案内) —————

6. 閉会

以上